

## 学校再編についての住民説明会

日 時：平成28年 7月23日(土) 午後2時00分～3時25分

会 場：北浦コミュニティセンター

出席者：住 民 13人(男10人、女3人)

教育委員会 委員長 後 藤 真 琴

委員 留 守 広 行

教育長 佐々木 賢 治

教育次長兼教育総務課長 須 田 政 好

教育総務課課長補佐 早 坂 幸 喜(司会・進行)

《課長補佐(早坂)》

皆さん、こんにちは。定刻になりましたので、学校再編についての住民説明会、北浦コミュニティセンター会場の部を開会させていただきます。開会に当たりまして美里町教育委員会後藤委員長から開会の挨拶を申し上げます。

《委員長(後藤)》

皆さん、こんにちは。メモを見てお話しすることをお許してください。小中学校の再編につきまして以前から教育委員会の懸案事項でありました。教育委員会では小中学校の再編につきまして、平成26年4月の定例会から継続協議にして協議を重ねてまいりました。そして、平成28年6月の定例会におきまして小中学校の再編についてまとめた美里町学校再編ビジョンを策定いたしました。今日は最初に教育委員会が現在考えている美里町学校再編ビジョンに沿った具体的な取組について簡潔にご説明申し上げ、次にそれに対する皆さんの率直な御意見、お考えをお聞きし、そして皆さんと意見を交換しながら将来の美里町の学校の在り方について考えていく一歩としたいと考えております。お配りしました学校再編住民説明会の開催についてという資料にもありますように、皆さんに今日ご説明申し上げる教育委員会が現在考えている再編ビジョンに沿った具体的な取り組みは、これからできる限り皆さんの御意見、お考えをお聞きし、皆さんと意見を交換しながら、共に将来の美里町の学校の姿のよりよいものを考え出して最終決定していくためのたたき台でございます。詳細につきましては教育次長から申し上げます。皆さんの率直な御意見、お考えをよろしく申し上げます。

《課長補佐(早坂)》

説明に先立ち、本日出席している教育委員及び職員の紹介を自己紹介で行わせていただきます。

(出席者5人が自己紹介をする。)

《課長補佐(早坂)》

それでは学校再編についての説明に入ります。説明は須田教育次長から申し上げます。

《教育次長（須田）》

私の方から資料の説明と言いますか、教育委員会の現在考えています再編についての考え方についてその概要を説明申し上げます。資料でございますが、今日机の上に配らせていただきました3点でございます。一つは1枚の次第でございます。二つ目は事前に配布していただきました何枚か綴じた今日お使いする資料であります。それからもう1枚ですね、町内の児童生徒数の推計一覧ということで配らせていただいております。これは今日急きょ追加、午前中の説明会でこういうのがあったら今後を考える上で必要だということで今日の午後の説明会から追加で配布させていただいたものであります。説明についてはこちらの綴じた資料であります。この1枚目につきましては、本日から始まっています町内8箇所の会場におきまして学校再編についての住民説明会を開催しますということで、下段の会場と日時を書かせていただいております。本会場2か所目でございますが、今日の夜には中塚コミュニティセンター、明日の午前、午後と不動堂中学校区の駅東地域交流センターと青生コミュニティセンターで説明会をさせていただきます。それから来週の土曜日でございますが、午前、午後、夜と南郷地区で3か所で開催するという内容であります。それからこの中段には現在教育委員会として考えています学校再編についての将来ビジョン、こちらの方の骨子を書かせていただきました。中学校の再編については現在あります3つの中学校を1校に再編し、目標であります平成33年4月に開校を目指したいという考えです。小学校の再編につきましては、こちらの方も現在あります6校を1校にしたいという考えであります。その経過措置としまして、現在の中学校区に1校に再編し、3つの学校を1つにするという2段階で行う方がよいのではないかとというのが現在の教育委員会の考えているところでございます。その2つをですね、説明会があるということと、現在考えている内容の主な骨子、この2つを伝えるために7月の広報に載せさせていただきました。それからこのような会を通しまして皆様にお伝えするために皆様にお配りをしているところでございます。それから、日時、会場の一番下のコメ印（※）のところにですね、事前に12日から各会場で配布していますが、幼稚園と小中学校のご父兄の皆さん、保護者の皆さんにもですね、それぞれ別途配布しております。たいへん申し訳ありませんが保育所のご父兄の皆さんにも配るべきでした。午前中の会場で御指摘を受けましたが漏れてしまいました。次回からは保育所、保育園のご父兄の皆さんにも配らせていただきたいと思います。これが1枚目、説明会のお知らせと骨子の部分をお伝えするための1枚目のチラシでございます。次に、お開きいただきまして2枚目には、先ほど教育委員長から申し上げました挨拶を文面の方に書かせていただいたものであります。こちらは飛ばします。3枚目、ここからページ数が振られますが、これが本日の住民説明会で御説明申し上げます説明資料という形になります。1枚目は説明会の次第ということで、別にお配りしております次第の資料と重複はいたしますが、開会、挨拶の後に説明ということで説明のポイントといいますか内容を①から⑥まで並べています。まず1点目と2点目については中学校のことをお話させていただきます。中学校をなぜ再編するのかという教育委員会の考え方、それから中学校をどのように再編するの

かという考え方を説明させていただきます。3点目、4点目につきましては同じく小学校の部です。小学校の部について同じく、なぜ小学校を再編するのか、小学校をどのように再編しようとしているのか、そのようなことを資料に書いています、そして、御説明をさせていただきます。5点目につきましては、それぞれ再編に伴います事業費、費用についてのお話でございます。6点目のつきましては、この説明会を受けまして、今後どのようなスケジュールで向かっていくか、その辺をお話させていただきます。これら6点について、簡潔と言いますか手短にお話しをさせていただきます。それではページをめくっていただきまして2ページと書いているところをお開きください。①、なぜ中学校の再編を行うのか、ということで中学校の方からご説明いたします。再編の理由としましては、教育委員会としましてはここに2つあげています。今後とも生徒数の減少が進むことです。現在も生徒数が減少していますが、今後増えることはないだろうと考えています。減少をできるだけ食い止めていきたいのですが、これも今後進むということが考えられるので生徒数の減少を一つの理由としています。この生徒数の減少によって、部活動の活動が思うようにできなったり、あるいは教科担当の先生が県から派遣されてきますが、クラスの数が少ないと派遣される先生の全体の枠が決まってしまうので、すべての教科で専門の先生は配置されるか不安な面があると、そのような生徒数の減少によって様々な支障がでるのではないかとこの考えであります。2つ目の理由ですが学校施設が段々と古くなってきているということで、現在はなんとか使用することができていますが、いずれ近い将来には大規模改修なり建替えなりなんらかの形でハード面において対策を打たなければならないという考えであります。この1つ目、2つ目の理由を合せまして、一緒に再編というものを考えながら、この課題を解決していきたいという考えであります。次に右側の3ページ目でございます。中学校をどのように再編するのか、先ほど1枚目のチラシの中でお話しました内容と重複しますが、現在あります不動堂中学校、小牛田中学校、南郷中学校を1つの仮称ですが美里中学校という形で再編したいという考えでございます。これは、33年4月の開校を目標に目指していきたいという現在の教育委員会の考えでございます。次に小学校を説明します。4ページと5ページでございます。小学校につきましても再編の理由、それから再編の内容についてでございます。まず、小学校の再編につきましては、学校が一つのクラスだけでなく、2つ以上の複数のクラスがあってクラス替え、学級替えのできる規模の小学校を作っていきたいというのが教育委員会の考えでございます。そうした理由から現在あります6校を次のように再編をしていきたいという考えでございます。最初は、中学校区ごとに、不動堂中学校区であれば不動堂小学校と青生小学校を、小牛田中学校区であれば小牛田小学校と北浦小学校、中塚小学校をそれぞれ1校ずつに再編し、その後ですね、南郷地区の南郷小学校と1つにする考えであります。こちらの方については、早くつくと理由の中で述べていますが、今後皆さんのご意見をお聴きしながら、皆さんと検討を重ねながら、御理解を得て進めたいと考えておりますので、まだまだ時間はかかるものと考えております。平成32年度、今年度を含めて5年間ありますが、その中である程度の方向性を決定し、その後の取組になるの

かなと考えています。次、6ページ目になります。⑤、費用はいくらかかるのか、事業費の話です。現在の学校施設がかなり古くなっていますので、そちらの方については今後何らかの手立てはしなければならないと考えています。それで、再編を行う場合、その内容にもよりますが、今ある学校施設の大規模改修をして活用していくのか、あるいは新たに新しい校舎を建てるのかによって費用、事業費等が異なってまいります。今後、専門の業者にその辺について校舎等を調べていただきまして、大規模改修をするための事業費、あるいは建てるための概ねの事業費、解体を含めましてどれくらいの費用がかかるのかをこれから調査していきたいと考えています。そして、今後の取組にも関連してまいります、その結果を見ながら、更に、再編の内容について再検討し、そして時期的な見直し、また、その手法、大規模改修をするのか、あるいは新しく建てるのか、その辺を含めながら、再度、住民説明会として皆様の方にお邪魔をしたいという考えであります。遅くとも、来年の1月までにはそのような運びで進め、目標ではございますが来年の3月までにはある程度の内容を決めていきたいというのが教育委員会の考えでございます。その後ろの2枚には、これからの美里町の学校の姿、学校の在り方について検討する上での資料を掲載させていただいております。中学校の現在の生徒の数と、それから33年4月に開校した場合の生徒数そしてクラスの数、教員の数がどのようになるのか、そしてその下には30人未満学級を実現した場合にどのようになるのか、そして線を引いた一番下の表には、現在の各中学校の部活動と部活動の部員数を書いています。めくっていただきましてその裏には、総合計画で推計しました目標人口が実現された場合に児童数と生徒数がどのように推移していくのか、2060年まで、これから40年後までですが、あくまで概ねの数字ですが、積算し示させていただいております。それから最後のページには、現在ある6つの小学校と3つの中学校のそれぞれの建築した年とその後の経過年数、それから敷地面積、校舎の床面積を書かせていただいております。一番右側のCRというのはクラスルームで、普通教室の数を書いています。本日追加で配らせていただきましたのは、平成27年から平成33年までの小学校も含めた児童数の推計であります。中学校の推計は先ほどの資料と重複するものであります。以上、簡単な説明でしたが説明とさせていただきます。

《課長補佐（早坂）》

説明は以上であります。只今の説明に対する質問、御意見を伺っていきたくと思います。皆さんの方から忌憚のない御意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

《女性》

昨年も説明会にも出まして、1回目も冬場にあったと思います。そこには都合で出られなかったのですが、1回目の時は、南郷の方は小中一貫のような形で出されたのではないかと思います。それが2回目の時に訂正されたのか。現在は出ていませんので、例えば中学校であれば一校にするという方向のようですがそのあたりの経過をお話ししていただきたいと思っております。次に2点目ですが、昨年もこのように今ある学校を使った場合と新しく学校を建て替えた場合とで金額が変わってくるであろうという話がありました。また、同じように書

かれていますのですが、概算でも数字が出てくるのかなと思っていました。その2つをお聴きしたいと思います。

《教育長（佐々木）》

南郷の小中一貫校というお話ですが、確かに学校教育環境審議会ではそうした審議をしていただき答申もいただきました。その答申を基に美里町教育委員会では策定ビジョンを策定し、そして昨年度再編ビジョンについての意見交換会を6回ほど実施しています。それで当初は審議会でも答申があったのですが、再編ビジョンの中でも第1期を32年までの5年間、第2期を33年からの5年間という目標の期間を定めまして、小学校を先に、南郷の小中一貫校を視野に入れて、そして中学校という考え方をビジョンなどで示していろいろな意見をいただきました。その中で中学校の校舎の経年劣化といいますか、かなり傷んできていることと生徒数の減少等々を考えると、中学校の方を先にやった方が良いのではないかという御意見もいただきました。そういったことなど総合的に教育委員会で継続協議をしてきまして、今回の説明会では3つの中学校の統合という考え方をお示しさせていただきました。もちろん、南郷地区の小中一貫校というのはまるっきりなくなったわけではありません。これから何回か住民説明会をしまして、皆様方からいっぱい意見をいただきまして、教育委員会では更に保護者対象の説明会なども考えておりまして、方向づけを決めていきたいと考えています。今日の説明会におきましては、3つの中学校を1つにという形で提案させていただきましたので御理解いただきたいと思います。

《教育次長（須田）》

事業費については現段階ではまったく積算はしていません。新築の場合は今までに建てた近隣の事例を調べていますが、今ある学校の改修にどれくらいかかるのかということについては、これから議会の方をお願いをして予算を措置して専門の業者に調べていただきたいと思います。

《女性》

そういうのも具体的な事例として出していただいた方が話し合いの中で資料になるのではないかと思います。

《教育次長（須田）》

次回にはお示しさせていただきます。

《課長補佐（早坂）》

只今、南郷地域における小中一貫校の件、それから事業費について御質問がありました。そのほか御質問、御意見等あれば伺います。

《男性》

再編の一つ目の理由に生徒数の減少が進みますと、だからなんとかしなければならぬんだということですが、町あるいは教育委員会で生徒数の減少を食い止めて増やしていくための町の今後の発展計画を考えていくというような立場での話し合いはなかったのですか。生徒数が減少するから仕方がないから再編しなくてはならぬんだという理由ですか。減

るのを食い止めるというのは町にも教育委員会にもないように思います。それで良いのかというのが1つです。私は疑問に思います

《教育長（佐々木）》

町当局と住民人口の増加、それに伴って児童生徒数の増加、当然これはやらなければならないこととっていますが、教育委員会としては、まず、教育委員会の中で実態を踏まえて進めていきたいと思います。また、町の方では総合計画との絡み、教育委員会としては確かに生徒数の減少、大変に難しいことであります。県立の中学校とか私立の中学校とかが近隣にありまして、できるだけ町内の中学校というこれは私たちの気持ちであります、最終的には生徒等々の希望になりますけれども、教育委員会としてはとにかく魅力のある学校づくり、基礎的基本学習の充実、学力の向上とか、いじめのない学校、心の問題、そして健康と体力、そういうことを最低限毎日の生活の中で頑張っ、子どもたちが美里で学んでよかったと、そういったことを念頭に入れて教育委員会としてはまずできることはそこからだという考え方でやっています。もっともっと大きなことをやってですね、美里町に児童生徒が家族を含めておいでいただき、住民が増えればそれでこしたことはないと思いますが、教育委員会としては現段階での小中学校のあり方、充実した学校ということで一生懸命やっているところであります。

《男性》

今のお話で、いじめのないとか、学力を上げるということですが、具体的にどういうことを考えているのか。今もやっているけれども、もし今後合併した場合にどれくらいのことを考えているのでしょうか。

《委員長（後藤）》

その辺ですが、中学校を一つにした場合、私は基本的には、小中学校は基礎学力を身に付ける場であると思っています。そのために、3校を一つにした場合、基礎学力をつけるために1学級の人数は30人未満にする考え、それから習熟度別のグループ分けを2段階でなく3段階にする考え方。例えば、今仮に4年生だったら、3年生とか2年生に戻らないと十分でないグループ、それから今4年生だったら4年生のものを理解する力はなんとかあるが応用力に欠けているグループ、それが2つ目です。3つ目は、基礎も応用力もある、その子たちをどんどん進めていく。そのためには、教員を臨時でも雇わなくてはならないです。そうしたことをこれから町長部局と相談をしていきます。それから30人未満学級の場合も町独自でかなりの人数の教員を雇わなければなりません。そういう形でまず基礎学力、それから学級が少なくなれば当然いじめの問題についても先生たちの目が届いてやれるだろうと。

《男性》

今、習熟度と言いましたけれども、1クラス30人未満にしたやつを、その1クラス30人を3つのクラスの分けようとしているのか、4クラス、5クラスあるものを3つに分けても意味がないと思うので、今の30人未満のクラスを習熟度で3つに分けるということですか

か。では、10人ずつのクラスになるのですね。

《委員長（後藤）》

やり方は、学級ごとに考えています。

《男性》

もう一度言います。大事なことですから。

30人の1クラスを3つに分けるということはものすごく良いことだと思います。例えば、今中学校で2クラスあって50人とすればそれを3クラスにする意味と、もともと1クラスの25人を3クラスにする意味ではぜんぜん違いますので、今のことが本当の話でしたら、10人前後の習熟度のクラスになると理解してよろしいですね。再度、確認をさせていただきます。

《教育長（佐々木）》

例えば、30人学級の場合、すぐに3つに分けるという考え方もありますが、学級の実態にもよるのですが、通常は習熟度の場合、基本コースと応用コース、子どもたちの希望する方に、あるいは教員の方で進めたりしてやっています。ですから、30人を即3つにというのは、なかなかその実態に応じて、いわゆる個別指導が必要な場合、3つのグループもありうるということです。

《男性》

ありうるという話ですか。

《教育長（佐々木）》

場合によっては、1年間3つに分けたままではなくて、「あなたは、こちらに移ってどんどん伸びていいですよ」と個人目標を設定しまして、あなたは最後までこの学級という意味ではなくて。そういった習熟度別という意味です。

《教育次長（須田）》

先ほどの少子化対策の御質問であります。その通りだと思います。お話をいただいたように人口減少に対する対策をなかなか取ってこなかったというのは事実です。一つ、言い訳をさせていただければ駅東地区に転入者が入ってきており、減少を若干でも緩やかにすることができています。資料としてお示しさせていただいた総合計画の時に推計したものは、実態に合わせたものでもっともっとカーブが下になります。これから、町がいろいろと少子化対策のために、あるいは転出を抑えるための対策をとってですね、人口減少を少しでも食い止めようという数字を目標数値として載せています。これからそういった対策をとっていてもですね、このように今後40年間で約25%が減少せざるを得ないという実態であります。こうした実態に対しては、やはり学校の再編は考えなくてはいけないというのは事実です。それと併せて、これ（少子化）を少しでも食い止め、計画目標人口を達成してそれ以上を超えるような頑張りといえますか、今後頑張っていかなければいけないと自戒しています。

《課長補佐（早坂）》

よろしいでしょうか。ほかに何か御質問、御意見等あれば。

《男性》

美里町が合併してからは約10年、小牛田地区と南郷地区の中学校が1つになるということ、私個人としてみれば、やれ南郷だ、やれ小牛田だといまだに言われている中で、学校を一つにして美里町は一つなんだよという教育をするということは、これもただ有かなと思っています。ただいかにせん、南郷の端から北浦の端まで直線でも約30キロ、通学ということ考えた場合にその辺のサポートとかケアというものを一緒に考えてもらえるのでしょうか。先ほど教育次長が言った「生徒数が少なくなって中学校の部活動にも問題が生じている」と、逆に通学がひどくなって部活動に影響してこないか。例えば30分おきに町のバスが各地区に全部出しますよ、安心して部活動をやってくださいというようなサポートをしてくれるのかしてくれないのか、最低でも子どもたちは15キロや20キロのところを一人で行かせるなどということは不可能な話です。まして夜に暗いところを帰すなどいうことは不可能なはずです。逆に部活動がおろそかになるのではないかという気がします。その辺はどのように考えていますか。

《教育長（佐々木）》

まったく言われる通りであります。教育委員会では今、小学校はスクールバスがあります。中学校は自転車もしくは徒歩になります。それで再編した場合、当然、通学をどうするのか、通学の距離もありますし、これは最低必要なことだと私たちは考えています。スクールバスなど、部活動に支障のないような通学方法は考えなくてはいけないというふうには当然に思っています。

《教育次長（須田）》

部活動の場合のスクールバスの送迎について県内の市町に聴きますと、朝は始業時間が一斉なので1便で行くそうです。一便で皆さんが乗れるくらいの台数が必要になります。帰りを見ますと、部活動をしない子といいますか、早い時間と、部活動をしてもしっかりと帰れる2便体制を組んでいるようです。2便体制でそれぞれ各地区に向かって走っていくという、最低そこまでの整備はしなければいけないと思っています。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、何か御質問、御意見等ありませんか。

《男性》

私は素人で教育についてわからないのですが、少人数になると思うような学習効果が上がらないと、ある程度の人数になれば、基礎学力をつけることもできるしと、教育の効果、学習の効果が上がるというような話が今聴いたのですが、話だけでは私には納得できませんね。なにか、こういう効果が全国的に出ていますとか、統計的にも出ていますというようなものを示していただければある程度そうかなとなるのですが、話だけではちょっと、再編、合併しても本当にそのようになるのかなという気持ち、これを私は強く思っています。

《教育長（佐々木）》



小規模校、中規模校がありますが、その小規模校だから学力うんぬん、中規模校だから学力うんぬんというデータはございません。それで、不動堂中学校も小牛田中学校も南郷中学校もそうですが、かつては4百、5百の生徒数があったんですね。生徒数が多いと子どもたちがいろいろな友だちとの良い意味での競い合いが生まれてきて、社会に出た時に頼もしい子どもたちの姿が期待できるのではないかなということが私たちの一番の願いであります。やはり、子どもたち中心ですね、考え方は。2百人よりも3百人、その方がいろいろな活動もできるし、学校行事にしましても、学習面にしても、良い意味での励みあい、競い合いが可能になってきます。それで、こういうことは今日決めたから明日からすぐにできるというものではありません。やはり、5年なり、それなりの長い目で見てどうなのかということをお私たちは考えなくてはいけないのかなと、この頃特に生徒数がどんどん減ってきていますので、思っているところであります。できればですね、多いところでいろいろ経験をさせたいという願いで教育委員会では協議させていただきました。回答にならないかもしれませんが。

《男性》

今の話ですけれども、昔はそのとおり1クラス40人で、我々の頃は高校では45人でしたかね、しかし私は小学校が小さい学校だったので10数人のクラスだったのですが。現在の子どもたちがそのような3百人、4百人の学校がもしできたとしたら、本当に競い合えるのかなと思います。現在の不登校問題とか、学力の低下とか、いろいろな学校の問題が本当に解決できるのかなと、そこの現場の先生たちが10人のうち10人が思えるかというのが大事な気がしますので、昔がこうだったから今の子どもたちにもそういうふうな鍛えようよというような強い意志があるならば良いのですが、複雑になる一方なような気がしますので、今の理由だと、ちょっと納得できなくなってしまいます。

《委員長（後藤）》

補足をさせていただきます。私は自分で小中学校を学んだ以外には、ずっと大学の方で働いていましたので、小中学校のことをよくわからないままに、教育委員を引き受けています。それで、少し勉強させてもらって、小規模の学校だったら、どんなメリット、デメリットがあるのだらうと、これは環境審議会（の答申）にもメリット、デメリットが書いてあります。それから文部科学省もメリット、デメリットがあるんだと、それを私なりに読んで、今回このようなもっと大きい中規模くらいに、3校を1つにした方が良いのではないかという結論を出しました時には、子どもたちがいろいろな仲間、友だちとの関係でいろいろな考え方、自分と違う考え方を知り得ること、それから中規模くらいになると先生も数多くこられる、そうすると先生と接する、先生の見方、ある先生はこの子をこう見る、ある先生は子をこう見る、その見方によっていろいろな見方がありうるのだということをお子どもたちが肌で学べる機会があるのではないかというふうに考えて、その上で学級数、先ほど申し上げましたように、とにかく30人未満学級にしなきゃならないのではないかと、そういうふうなことを教育委員会の中でも申し上げている次第であります。

《男性》

再編となると、新しい校舎を建てるにせよ、改修をするにせよ、現在の場所で面積は十分なのか、一つは。もう一つは、再編によって空いた土地がありますので、その土地の跡処理の問題なんかは考えていますか。

《教育次長（須田）》

中学校の場合ですと、これもまだ、必要な面積などは拾ってはいないのですが、南郷中学校と不動堂中学校と小牛田中学校がありますが、それぞれの活用できる施設、活用できる土地、それらをどう活用していくか、それもこれから調査をかけながら、その広さ、広さ的には今の校地だけでは3校のいずれをとっても間に合いませんので、拡張は必要になってきます。拡張する時の周辺の状況等も含めて、今の校地をそのまま跡利用するのか、新しく土地を求めるのかはこれから調査をしていく考えです。仮に、どこか1校の土地を使うとなった場合に、残りの2校についてどのように活用していくのかについても、大変申し訳ないのですが現在のところではまだそこまで考えは及んでいません。今は教育財産ですが、教育の用途が終わればいったん町長の方へ返しますので、町長部局と協議をしてその後の活用を考えていくこととなります。現在のところそこまで考えが及んでいないのが実態であります。

《課長補佐（早坂）》

よろしいでしょうか。資料の一番うしろ、学校施設の現状と老朽化のところにCR、クラスルームの数が書いてあります。その数を見ていただくと、例えば小牛田中学校が14、不動堂中学校が12、南郷中学校が9となっています。例えばここのクラスの数をつすと合計20のクラスがあるわけですから、例えばどこか既存の中学校に全部入れるよとなった時には、そのまんまでは基本的には無理だということですね。増築とか何らかのことはしなければならぬということは歴然としているということです。

そのほか、ございますでしょうか。

《男性》

全国的にも、全県的にも生徒数が少ないというのは（共通の）課題だと思います。そういう意味では、先ほどの予算の関係も出てくるのですが、平成33年ですとあと5年ですから、そういう意味で町単独で予算取りができるのかどうか、というところが多少不安なところがあると思います。ですので、国のいろいろな補助金とかが使えるような県の指導とかそのようなことが全地域に対してあるのかどうか、それを1点確認したいのと、それから先ほどどなたか話がありましたが、生徒数が減少だと、あるいは建物が老朽化していると、だから統合、再編していかなければならないのだというようなお話しですが、美里町としても先ほどのいろいろなビジョン、考え方を言われていましたけれども、そのあたりの項目をもう少しビジョンの中にはっきりと謳っていただければ、我々としても理解は深まるのではないかなと思います。それから、我々、美里町としては小牛田農林とか南郷高校がありますよね、そういう意味で学校数が少ない中で高校が2つというのは一つの特徴だと思うのですが、そういうふうな連携だとか、特徴づけというのを考える必要があるのではないかなという

ふうな感じがします。それから、教育現場で携わっている各先生方ですね、先生方は今どういう考えを持たれているのか、我われよりも専門だと思しますので、将来を見た場合にどういふふうなお考えなのか。現在の状態でも良いところと悪いところがあると思います。そういったところを、高校まで入れると10数校になりますが、各学校でまとめてもらうということも必要ではないのかなと、専門の先生たちにもそういう議論をしてもらってよいのではないかなという風な感じがします。

《教育次長（須田）》

1点目の予算絡みの関係ですが、これからどのような事業費を確定して、その財源として、国、県の財源をできるだけ有効的に活用していくという考えでもっていききたいと思っています。ただ、先日、半月ほどまでに鶴岡市の鶴岡第三中学校が国の補助金がほぼ良いような見通しだったので、予算を計上していたらば、内示が出なくて予算を取消ししたと、しかし、数日前には国が急所また予算をつけて、もう一度提出し直して鶴岡第三中学校を建て直すというお話がありました。それを受けまして、県の施設整備課に行ってきたのですが、今はこれまでの震災の復興関係で財源が教育施設にかなり向いていたのですが、それがだんだん減ってきているので、文科省の施設整備の方に、従来からあった学校整備、学校建設の財源の方に全国の小中学校の建設がどんどん向いてきているそうです。それで、本町と同じ昭和40年代に建築した校舎が多いために同じような課題を抱えている市町村がかなり出てきているそうです。それで状況は、文部科学省が確保した予算の倍くらいの申請が出ているという話を聴いてきました。今までの予算は申請あったものとほぼ同じくらいだったので、市町村から申請があればきちんと配分できたそうですが、今は競争率が2倍になっているということでかなり厳しいそうです。国の方も財政的にかなり苦しいものですから、財務省の方もなかなか予算をつけないということで、文部科学省から県を通して言われていることは、国の補助金については今までのように申請したらすぐに通るという話にはいきませんよと言われていています。それで補助率もですね、補助率というものがありまして、だいたい3分の1くらいの補助率を示しているのですが、美里町が建てようとする、例えば10億円で建てようとして、その10億円の3割、30%の補助金をよこすというわけではなくて、その10億円のすべての規模が認められません。このうちの5億円は対象外だとか、面積が大きすぎるとかで外されます。それから平米単価の建築単価が美里町では贅沢につくり過ぎているから国で決めた基準で（補助金を）積算しますよって感じです。そうなってくると最終的には、今は約20%までしかもらえません。5分の1です。ですので、事業費のうち5分の1は国から支援していただきますが、5分の4は町としてなんらかの準備をしなければならぬということです。そのような情報を得ながら、これからどのようなものを作るのか、あるいは、改築していくのか事業費の積算も含めながら、今財政計画を町で立てていますが、そちらとの整合をはかりながら、この年度に建てる場合には、町の財政に負担はかかりますが、できるだけ負担を小さくしながら計画をつくっていききたいと今四苦八苦しているところであります。

《男性》

はい、今の鶴岡のに関連して、新聞記事持ってきましたから。

《課長補佐（早坂）》

まだ、続きがありますから。

《男性》

2、3日前の新聞に載ったのです。なんで、鶴岡が断ったかというのと、やめることになったかというのと23億円に対する補助というのは5千万円しかなかったんですね。5千万円というのは2パーセントです。それが1億5千4百万円、約6パーセント増やしますからというのでやったのです。建てることにしたのです。今、次長が言われたことを本気にしていけば、23億円に対する1億5千万円というのは6パーセントでしょ、10パーセントにならないんです。それで鶴岡はのんでいるのです。これはそうではないんだというなら新聞に問題があるし、今次長が言ったことが話が違うので本当に3分の1の補助があるのかどうかということをもう少しはつきりしてくれませんか。

《教育次長（須田）》

今、私がお話しさせていただきましたのは、補助率というのが仮に30パーセントの補助率の場合、町が用意した事業費に対して30パーセントではなくて、国が定めた基準の面積、面積当たりの事業費を国で定めています。それが実態とあったものとなっていればよいのですが、面積当たりの事業費というものをかなり低く抑えている、面積も必要面積と呼ばれて最低面積に抑えているものですから、実際に30パーセントという補助率、これは40パーセントのものもありますし50パーセントのものもあります。文部科学省の補助率30パーセントというものに対して30パーセントがくるのではなくて、最終的には、県の話では学校を建てた場合は、2割程度しかきませんよという話でした。それで鶴岡市の事情について私も2、3日前に新聞を見て、国が予算が復活したんだなって見ましたけれども、鶴岡市の例を出したのは、国が県を通して各市町からあがってきたものをすぐに認可して補助金を交付できる状況ではなくて、全国の中でかなりの競争があつてですね、それで鶴岡が1回落ちて、その後にも復活したというニュースを見ましたので、それだけ市町村が県を通して国に申請をした場合、厳しい状況にあるということをお伝えしたかったわけです。

《男性》

良い話だけではなくて最悪の場合も考えなければなりません。だから今言われたように、3分の1とか3分の2とか話をしているけれども、いったい、今回の中学校を再編したら、どれくらいの予算がかかるかをすぐに頭の中になければならないと思います。提案できないでしょ。皆さん賛成したから作りました、いくらかかるのか、当初の説明会では20億円かかると説明しましたが30億円かかりました、こういう話になりませんか。今の学校の中で一つに統合してできる学校施設はありますか、場所が。学校を継続しながらどっかに新しく建てる以外にないでしょ。そしたら、土地も買わなくてはいけない、道の駅と同じですよ。土地も買わなくてはならない、建物も建てなくてはならない。その相当の額がかかるのが、

私から見たら30億円近くの金がかかるのではないかなと私なりに関係者と話をしながら試算しています。その場合に、少なめの20万円のうち3分の1、12万なり13万なら仕方ないかと今日出席している人たちに思わせるようなことは避けるべきだと私は思います。どの座談会でも反対がなかったから建てます。結果的に開いてみたら予想以上の金がかかった。中塚小学校を見てください。それを作る時のいきさつを前の町長は知っているはずです。今の町長は、彼は賛成している、俺だけ反対でした。そうした少子化を考えた場合につくるべきでないというものを作って、13年たったらもう少子化ですよと馬鹿なことを言って壊す。さっきの話では、残った校舎をどういうふうにするのか、この計画もなくして統合しなければなりません、統合のために新しく建てるほかありませんと結果だけを後から持ってくるのでは困るということです。少なくとも、統合するならどこへ、不動堂中学校にまとめるか、南郷中学校にまとめるか、あるいは小牛田中学校にまとめるか、どこもできないのです、はっきり言えば、そうすると、どこかに新しく土地を買う、こういうことが自然と出てくるでしょ、そういう前のことも含めて説明していただかなければ、そこまで気づかない人もいることだから、その場合にあんたたちのことを信用して賛成したら、反対しなかったらこういう格好になってこういう町にいるのも嫌になったと、そういわれたら困りませんか。ここに残っている人たちが皆払うことになる、あんたらの子どもたち。その子どもたちに負担を強いるようなことをするのに、はっきりとした計画を持たずに提案するというのは私には賛成できない。次長に聴きますが、統合しなくちゃならない理由というのは、生徒が少なくて教師の目が気配りできていいでしょ、幼稚園が低学年になると、子どもたちの年齢が低いほど担当の教員の児童の数は少なくなっている、少ない方が目配りきく。30人のところ25人でいいわけだから。25人に目配りしておけばいい、ただ、いじめの問題というデメリットがある。こういうことがなってくるのは、学校の方針、正論に従わなければ、

《教育次長（須田）》

先ほどの質問で4つをお尋ねされましたが、まだ、1つしか答えていないのです。残りの3つが終わってからにしていただけませんか。

《男性》

はい。

《教育長（佐々木）》

先ほどの2点目の質問は、ビジョンにもうちょっと具体的にメリット、デメリットですか、再編した場合の効果、そういったものを具体的に載せるべきではないかと、まさに言われる通りだと思います。説明会は今回限りではありませんので、もう少し詳しくですね、今日はとにかくいろいろな意見をお聴きしたいということで、まずたたき台として、教育委員会としての考え方を示してやっていこうということです、その期待される効果等については更にですね、何点かお示しをしたいと思っています。それから教職員の考え方だっと思っていたのですが、27年の2月に1回アンケートをとっています。それは審議会からの答申を

いただいた後のアンケートでして具体的に説明も特にしていない、いわゆる意識調査的なアンケートでございました。その時は、中学校は3学級が望ましいとか、そういった回答をいただいておりますが、今度はもう少し具体的に説明をして、保護者を対象に説明会を予定してございます。当然、先生方にも参加していただき、学校の先生方の考え方なども十分取り入れながら、進めていきたいという考えでおります。それから高校との関係だったと思いますが、高校にはこのことはまだ一切お知らせしておりませんが、高校の方についても学校の維持について、現状維持あるいはプラス的なことをするにしても大変苦慮されているということを聴いております。いろいろとお話を聴きながらですね、教育委員会としても内容を確認しながら、参考にできるものは参考にしていかなければいけないのかなと、美里町の中学校の現状なども伝えながらですね、進めていかなければいけないのかなと思われました。ありがとうございました。

《男性》

たたき台と言いましたよね。

《課長補佐（早坂）》

はい。

《男性》

わかりました、結構です。

《課長補佐（早坂）》

そのほか何か御質問、はい。

《女性》

今の話で予算をつけるのも難しい、苦しいんだという、あれもこれもということがなかなかできないとなると、やはり保護者に負担が、あるいは子どもに負担がかかるのが心配だなと思うのは、先ほど話された通学の件で、どうしてもバスは用意しなければいけないだろうと思いますが、子どもたちが十分に学習活動とか部活動とか、中学生であれば、小学生も放課後の活動が十分にされなければ子どもの成長というのは、教室だけではないと思いますので、その通学の保障というのがやはりあって欲しいですし、例えば熱を出したとか、体調不良になったときに、例えば北浦小学校から御免までとか、あるいは関根までとかから通うのと、もっと遠くから通うのでは大変ですし、その場合に保護者が迎えに行かなければいけないのだろうし、それはどうするのか、あるいは、しばらくの時間は保健室であずかってくれるのか、どの程度までやってくれるのか、いろいろと細かいことはあると思います。それによってお金もかかってくると思います。やはり、そこも考えて欲しいなと思います。ただ、少ないから集めるだけではならない大変なことがあります。それから、美里町は子どもの教員補助員を多く確保しているのかなと思います。最近は何人くらいいるのかはわかりませんが、教員補助員がいるということは良いことですが、そして、子どもも多様になっていると思います。手をかけなければならぬ子どもたちがいっぱいいると思うので、それに対する教員補助員が十分に確保されなければならぬだろうし、それが統合して大きい学

校になった時には、もっと必要な教員補助員が欲しいかもしれない、というのがあります。それから、このことは現場の先生に聞いたのですが、教員補助員と担任の先生の打ち合わせをする時間がないということです。手当の関係もあるでしょうから、出勤する時間が遅いので朝の打ち合わせができないとか、先生が帰る時間には教員補助員がいないので放課後の明日どうするかというふうな打ち合わせができない。だから、具体的な子どものための援助までなかなか頼めないでいる部分もあるというふうなことです。どうせ、そういう先生（教員補助員）を頼んでいるので有効に力を発揮していただきたい、ということはその先生（教員補助員）の手当なりにも必要なんだろうと思います。そこも十分に考えて、単に集めるのではなくて、1か所に多く集めるじゃなくて、先ほどあったメリット、デメリットの中にそういうことも入れてですね、考えていただきたいし、そういうデータも欲しいです。やはり、栗原とかも集めていますよね、小さい学校を統合しているところがいっぱいあるのですが、その地域は今どうなっているのか、あまり良くないという話も聴きます、現場の先生から。しかし、それが片方の意見かもしれないし、やはり教育委員会としては両方の面からのデータを拾って、美里だったら子どもを預けたいという学校を作らなければならないと思います。ですので、今日みたいに大ざっぱに出されると、考えるのがちょっと大変、もっと具体的なデータを出してくださいという思いがあります。

《教育長（佐々木）》

こうします、予算これだけかかりますと、そういうふうにお示しすればいいのですが、そこまでできない現状なので、まずはその点を御理解いただきたいと思います。いろいろと意見を聴いてですね。

《女性》

町と教育委員会の、特にお金の部分は町に関わるわけですが、その辺の具体的な話はなしで教育委員会だけで進めるのですか、今は。

《教育長（佐々木）》

こちらの考え方を示して、町との協議というのが。

《女性》

それはいつ頃ですか。

《教育長（佐々木）》

考え方ですが、子どもたちを中心に再編というものを考えていきますと、そして2点目は地域の住民の皆様の意見、これはもちろん十分大事にしながら再編を考えていく、3点目にやはり財政問題ですね。ですから、方向づけが決まらないうちにお金なんとかしてくださいというふうにもっていけないと思いますので、そういった考え方で当然입니다。

《女性》

なおさら、細かいところまでデータをだしていただきたいと思います。

《教育長（佐々木）》

それから、危機管理、スクールバスとか、体調不良の子どもが発生した場合、うんぬんとい

うことですが、これは再編に関わらず、現在もやらせていただいております。なおさら、危機管理というものは学校では大変重要なことでありまして、子どもたちの安心・安全を最優先にという考えで、再編しようが現状であろうがそういった考えでありますので、よろしくをお願いします。それから教員補助員の要望的なお話をいただきましたが、特別教育支援員を含めて今29名、学校から要請のあった分をなんとかその人数確保に努めているところであります。それで有効活用については現場と協議をしながら進めていきたいと思っております。

《委員長（後藤）》

補足をさせていただきますと、町長部局とは、今年から法律が改正されまして、美里町では一部適用されていないのですが、総合教育会議というのができまして、そこで教育委員会と町長が協議をしてこの再編ビジョンについても、2度ほど話し合いをしまして町長は町長なりに理解はしていると思っております。それからもう一つですが、この再編の関しましては基本的には子どもたちの学ぶ環境を今よりは良くするんだということですので、そのへんのところでいろいろと教育委員会として気が付かないこともあるんじゃないかと、私が気が付かないからそう思っているのかもしれないかもしれませんが、それでいろいろとご意見を出していただければありがたいと思っております。

《男性》

返答はいりませんので、意見だけを言わせていただきます。支援員が20数人いるということですが、支援員とか非常勤、常勤の方がたくさんいらっしゃるかと思いますけれども、教員がそういう人たちで良いのかということ、元々、先生がクラスに一人いて支援員とかの先生方がいて、プラスになっていい学校システムかなと思われるかもしれませんが、元々支援員とか、非常勤職員の先生なんかはクラスをもったりしていますが、その人たちは本当に非正職員でいいのか？正職員の先生がなるべきものであって、先生方にも生活があるわけで、何の保障もなく非常勤をやっているわけですから。正職員の先生方を一人でも多く、もちろん費用の面もありますから、安くするためにということもありますが、そのところは正職員を雇っていただきたいと思っております。それからもう1点は、さきほど30人未満のクラスとうかがいましたが、今の40人以下からすればすごく良いなと思っております。でも、私、この会場に来る前に「でも20人だともっといいなあ」とか考えていました、今が40人だから遠慮して30人未満と言っている話であって、適切な人数が何人なのかなということもあると思っております。今のこの資料をよく見ますと、どこかの学校では1クラス19人のところもあります。ということは、その学校から言わせれば、その年次は、3つ集まることによって26人になるんですね。そうすると、7人増えてしまったというふうなことがおきます。もちろん、多いところでは40人とか37人とかのクラスがあるようですが、そうなった場合に本当に30人で良いのかなということで、また、数値を再検討していただきたい、現場の先生方に聴いていただきたいと思っております。人数について29人以下よりもう少し少なくても良いのではないかと感じました。

《課長補佐（早坂）》



回答はいらぬということですので、そのほか、何かございませんか。

《男性》

南郷地域には大橋地区とか小島地区とか、砂山小学校があった地区で、一番南の端ですが。私が思っていたのは、南郷小学校と南郷中学校が一貫校のようになって、元々南郷町という町があったわけですから、学校までがなくなることはないだろうと思っていました。南郷小学校と南郷中学校が小中一貫校となって、もし統合するとなれば小牛田地域かなと思っていました。ところが、これを見て、びっくりしたのが中学校もみな一つの中学校にすると、挙句の果ては小学校も一つにすると。そうすると、どこに作るかという疑問は出るのですが、まず考えるのは小牛田地域に作るのだらうと思います。そうすると、ますます南郷地域の人、合併して小学校も中学校もみな町（地域）からなくなるのかと、その時に頭に浮かぶのは、学校のない町（地域）になったならば、若い人たちがますます住まなくなるのではないかと、すると南郷地域の将来はどうなるのかという、そういう不安が出てくると思います。教育委員会としてその辺を議論したと思いますが、一気にここで一つの小学校、一つの中学校に出された大きな理由、決定的な理由というのは何だったのかをききたくなるくらいです。南郷地区の教育委員の方もいると思いますが、その辺の配慮があったのかどうか、私は気にかかることですね。

《教育長（佐々木）》

確かに、今お話されたことは懸念しています。それで、例えば、小牛田地域だけで再編をした場合、長い目で見た場合に南郷中学校はそのままでいいのかと、長い目で見た場合ですね。どこに建てるか、場所にもよるとは思いますが、「後から一緒になりましょう」というのはたいへん難しいことだと思います。その辺も含めて、これから、南郷地域の方々の意見をいっぱい聴くわけですが、教育委員会としては町全体を見て、中学校がどうあるべきかということで協議をさせていただきました。場合によっては、場所はまだ決まっていますが、小牛田中と不動堂中が一つになって、いつでもそこに一緒になれるよといった弾力的な手段、方法はいろいろあるかと思ひます。ただ、教育委員会としては町全体を見て考えています、それについて御意見をいただきますという現時点での考えであります。

《男性》

そこいらへんが、すっきりしませんよね。

《教育次長（須田）》

私もそこ大橋地区の出身で砂山小学校の卒業生です。今教育長がお話をしたように、全体を見て、南郷中学校が一番生徒数が少ないです。教育的な配慮から見ると、南郷中学校をはずして、こちらの2つだけを統合というのは、施設が古くなっているからという理由しかないと思います。南郷地域の中学生の教育を考えた場合、現在全校で130人ですから、そのまま120人、100人と人数が減っていくわけですから、それをそのままにしておいて良いのかという議論もありまして、3つの中学校を1つにするべきであろうなという協議の経過があります。先ほどから、たたき台というお話をしていますが、あくまでもたたき台です

ので、今日この会場が2か所目です。これから3か所目、4か所目、そして来週は南郷地域に行っているいろいろな意見を聴きながら、この内容を皆さんの意見の集約から変えていくというのは十分ありますので、今回あまりにも大雑把な資料を出しましたが、これを素にいろいろな意見を聴きながら、今後のビジョンをつくり直していきたいという考えであります。

《課長補佐（早坂）》

そのほか、何かございませんか。

《教育次長（須田）》

先ほど、教育長からもお話ししましたが、保護者の皆さんとも今後9月頃に話し合いを持っていきます。保護者、PTAの方々をお願いをしまして、各学校単位で話し合いを持っていきたいと思っています。それから、今後、この方向性が変わったり、あるいはこのビジョンが変わる度に皆さんのところに説明にあがります。さらに意見を聴きながら、何度も改正しながら作っていきたく思いますのでよろしくお願いします。

《課長補佐（早坂）》

それでは、以上をもちまして、学校再編についての住民説明会を閉じさせていただきたいと思えます。閉会に当たりまして佐々木教育長から挨拶を申し上げます。

《教育長（佐々木）》

一言、御礼の御挨拶を申し上げます。今日は、大変お忙しいところ土曜日の午後のこの時間帯ですね、お集まりいただきましてありがとうございました。この再編についての説明会をさせていただきましたが本当に子どもたちを思っの御意見、再編して本当に子ども達がよくなるのかといった御心配の声、そして地域住民の方々の理解をどうするのだと、学校というのは地域の文化でもありますし、もし、学校がなくなった場合にどうなるのだという心配、更には町当局との財政の問題等々、いろいろなお話しをいただきました。今2か所目ありますが、これから残りもありますけれども、そういったことをきちとこちらで記録をしまして方向を定めていきたいなど、そして更に保護者を対象の説明会、住民の説明会等を積み重ねながら良い方向にありたいなど思っておりますので今後ともよろしくお願ひしたいと思えます。今日は、大変ありがとうございました。